

## 2013 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 岡崎城西高等学校 ] 担当教諭名 [ 武政 晴信 ] ( 国際協力部 7名 )  
 交流相手国 [ ケニア ]  
 海外学校名 [ Wamumu Rehabilitation School ] 担当教諭名 [ 藤本 健司(JICA) ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	クラブ活動	国際協力部	30

### ■作品について教えてください。

題 (テーマ)	私たちの未来
絵に込めたメッセージ	ワムム更正学校がケニアで犯罪を犯した子供たちの厚生施設であり、その原因が貧困であったりということから、過去に目を向けつつも明るい未来にスポットを当てて、将来の夢を描いた。そこにお互いの文化も表現した。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
国が違くと、貧困などの問題を抱え、それにより犯罪を犯してしまう子供たちがいるという世界の現状を知った。どこに生まれても、子供たちは同じように夢を持ち、明るい未来を望んでいると感じ、世界で活躍したいという生徒自身の進学にも繋がっていった。	日本側の絵の技術の向上、語学力の向上。

### ■アートマイルの活動を周りにお知らせしましたか？ 周りの反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報	校内・保護者や地域の方からの反響
4 月中に校内展示の予定。全校生徒の前で紹介ではなく、たくさんの生徒が通る場所に展示し、説明をつける。	まだ展示していないのでわかりませんが、好評価であると思う。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	8月 9月	自己紹介、学校紹介を作成し、掲示板へ投稿 ゲストティーチャー(本校教員で、ケニアへの元協力隊員)の話聞く	自己紹介を楽しそうに行っていた ケニアへ行った人の話も真剣に聞いた	部活動 4
情報収集	10月	衣、食、住、教育など分野を分担し、ネットで調べ、仲間内で披露 SKYPE でお互いと対面 その後 SKYPE はケニア側のネット環境により、4回ほど失敗	調べたものと、直接対面したときの印象の違いに戸惑いながらも、そのおかげで親近感が深まった	部活動 8
テーマ検討	11月	お互いにくつか案を出し合い、共通なものを採用。	なるべくケニアの意見を尊重しようという姿勢が見られた	部活動 4
制作	11月	分担をして作業を行った	お互いのバランスを考え話し合いながら熱心に作業ができた。	部活動 12
鑑賞	3月	大半が卒業してからの絵の到着であったが、ほとんどが集まってくれたの鑑賞が行えた	卒業してからも絵が見たいと、関心の深さがうかがえた	部活動 2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことを ABC で記入 (A:特に重視した B:重視した C:あまり重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	自分たちの学校紹介を楽しそうに行っていた
異文化の理解	A	5	外語系の進路を選ぶ生徒が多かった
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	SKYPE を楽しんで行っていた 繋がらなかったときの生徒の粘りもすごかった
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	高校生レベルのことはできたと思う
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	4	今までになく、全体が団結していた
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	お互いをよくフォローしていた
学習を追究する意欲	B	3	ケニアへの関心が深まった
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	3	絵が上達しない
作品を鑑賞する力	B	4	卒業しても、絵を見るためだけに集まってくれた